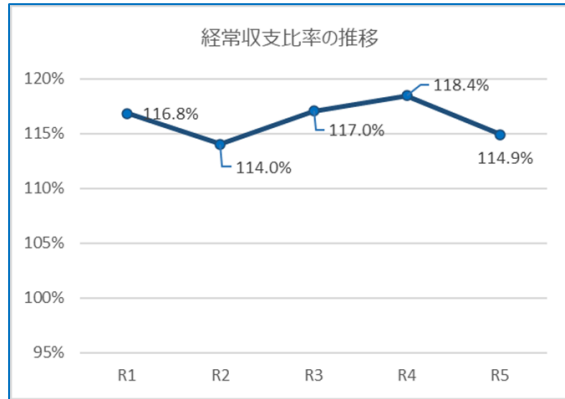


2-5. 経営の状況

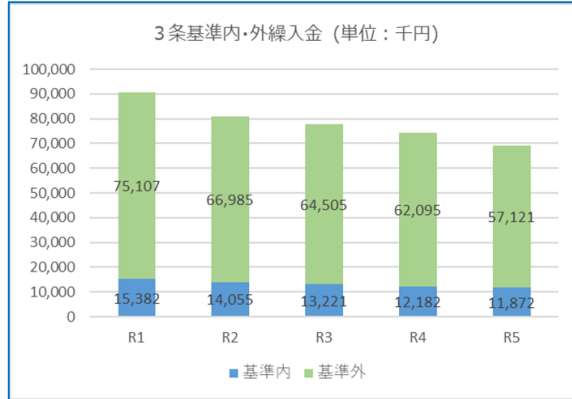
1) 収支の推移

経常収益で経常費用をどれだけ賄うことができたのかを示す指標である経常収支比率は、100%を超えています。ただこれは一般会計から基準外の繰入金をもらうことで達成しているため、基準外繰入金を減らせるような取組が必要です。

▶ 経常収支比率の推移



▶ 3条（収益的収支）繰入金の推移



2) 各種指標の類似団体比較

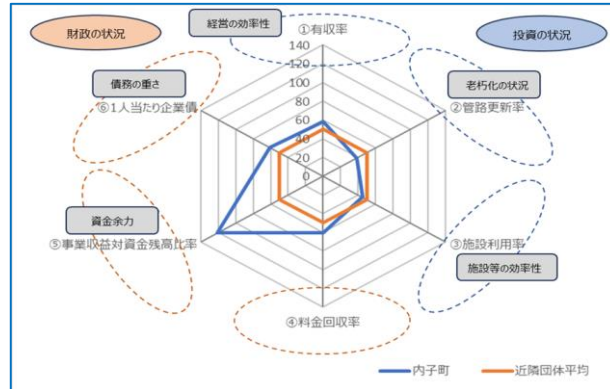
有収率、料金回収率、事業収益対資金残高比率は類似団体平均を上回っています。一方で、一人当たりの企業債（借入）残高は類似団体平均より多いため、企業債の圧縮に向けた取組が必要です。

▶ 主要指標の類似団体比較

経営指標	内子町	類似団体平均	数値の見方
① 有収率	82.35	76.04	▲
② 管路更新率	0.1	0.7	▲
③ 施設利用率	54.8	60.66	▲
④ 料金回収率	94.2	84.43	▲
⑤ 事業収益対資金残高比率	261.41	66.22	▲
⑥ 一人当たり企業債	173.06	117.88	▼

(※ ▲：数値が高い方が良好、▼：数値が低い方が良好、緑は類似団体より悪化している指標)

▶ レーダーチャート



3. 経営理念と基本方針

「内子の森の恵みの水 未来に届けよう」



4. 効率化・健全化の取組

1) 投資計画（目標）

有収率	80%以上
管路更新率	0.8%以上

2) 財政計画（目標）

料金回収率	100%以上
1人当たり企業債残高	150千円以下

3) 取組の内容

投資面に関しては、①内子町上下水道耐震化計画に基づく防災・安全対策、②施設・設備の合理化、③広域化、④民間のノウハウ活用の4つの視点から取組を実施します。

また財政面に関しては、①料金改定、②企業債発行の抑制、③現有財産の有効活用などの観点から取組を実施します。

5. 投資財政計画

1) 投資財政計画（主要項目）料金改定しない場合

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
給水収益	245,937	231,971	227,397	222,914	218,519	214,199	209,964	205,812	201,743	197,754
受託工事収益	118	165	165	165	165	165	165	165	165	165
その他営業収益	605	721	721	721	721	721	721	721	721	721
加入金	1,227	1,323	1,297	1,271	1,245	1,220	1,196	1,172	1,149	1,126
営業収益	247,887	234,179	229,579	225,070	220,650	216,304	212,045	207,870	203,777	199,765
営業費用	378,655	367,092	377,651	387,651	390,896	395,580	398,303	416,709	420,755	424,431
営業利益	-130,768	-132,913	-148,072	-162,581	-170,246	-179,276	-186,258	-208,839	-216,978	-224,666
営業外収益	165,896	155,170	117,197	118,166	119,069	118,997	119,015	119,022	119,367	119,273
営業外費用	32,632	34,809	33,300	31,479	29,349	27,065	24,986	24,445	21,157	19,488
経常損益	2,496	-12,552	-64,175	-75,893	-80,526	-87,344	-92,228	-114,262	-118,767	-124,881
当年度純利益	2,407	-12,552	-64,175	-75,893	-80,526	-87,344	-92,228	-114,262	-118,767	-124,881
現預金残高	1,122,207	996,043	849,542	739,713	664,186	469,004	170,411	117,487	53,385	60,143
企業債残高	2,649,797	2,583,538	2,498,571	2,361,179	2,218,836	2,082,096	1,951,630	1,828,383	1,713,524	1,618,077

2) 目標指標一覧

指標	意味	R5 (実績)	R11 (目標)	R16 (目標)	算式
経常収支比率	(経営の健全性)	114.9%	100.0%	100.0%	経常収益÷経常費用
事業収益対資金残高比率	(資金の余力度)	525.7%	330.0%	250.0%	現金・預金残高等の額÷事業収益
一人当たり企業債	(債務の重さ)	187千円	175千円	150千円	企業債残高÷給水人口 供給単価÷給水原価
料金回収率	(経営の効率性)	92.1%	92.5%	95.0%	(経常費用-受託工事費等-長期前受金戻入)÷年間総有収水量

6. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

水道ビジョン・経営戦略の推進のため、毎年度進捗管理（モニタリング）を行います。

また、水道ビジョン・経営戦略の計画期間は令和7年度～令和16年度の10年間ですが、5年後の令和12年度に見直し（ローリング）を行う予定です。水道ビジョン・経営戦略の投資・財政計画に対する実績との乖離を検証するだけでなく、将来予測や「収支ギャップ」の解消に向けた取り組み等についても検証し、必要な見直しを行っていきます。また、見直しの際に評価・分析を行い、その結果を次の水道ビジョン・経営戦略に反映させるPDCAサイクル「計画の策定（Plan）-実施（Do）-検証（check）-見直し（Action）」を導入し、目標の達成状況や見直した水道ビジョン・経営戦略を住民のみなさまへ公表し、更なる経営の健全化に取り組めます。